

7～8月咲き露地小ギクの整枝作業の省略および2回摘心による短茎多収栽培技術			
【要約】7～8月咲き露地小ギク栽培において、摘心後は無整枝とし放任することで省力化・軽労化を図ることができる。特に定植3週間後摘心を行いその後放任することで、慣行の整枝を行う栽培より株あたりの採花本数が増し、多収となる。			
農業技術振興センター 栽培研究部 花き・果樹分場 花き担当			【実施期間】平成19年度
【部会】農産	【分野】高品質化技術	【予算区分】県単	【成果分類】指導

[背景・ねらい]

近年、ホームユース用切り花の需要が拡大しており、これに対応した切り花栽培技術の確立が求められている。また、県内の露地小ギク栽培においては生産者の高齢化が進み、労働時間の短縮が期待できる切り花の短茎化への関心が高まっている。

そこで、切り花長60cmを基準とし多収を目標とした7～8月咲き露地小ギクの省力化・軽労化栽培技術として、摘心後の整枝を行わない栽培について検討する。さらに、より多収を目指した、整枝時に2回目摘心を行う栽培方法についても検討する。

[成果の内容・特徴]

定植1週間後の摘心以降無整枝で放任することで、定植1週間後に摘心し3本に整枝を行った慣行栽培株より採花本数が多くなる。切り花長は慣行栽培のものと同程度以上である(表1、図1)。

定植3週間後に摘心を行い以降無整枝で放任することで、採花本数は慣行栽培株および定植1週間後の摘心以降放任した株よりも多くなる。切り花長は慣行栽培および定植1週間後の摘心以降放任したものと同程度である。また、採花期間がやや長くなる傾向がある(表1、図1)。

定植1週間後に摘心したのち、整枝した3本の分枝にさらに2回目の摘心を行うことにより、採花本数は整枝のみの慣行栽培株および1週あるいは3週摘心後放任株より多くなる。しかし、切り花長はこれらより短くなり、花蕾数も減少する。また、採花始めが遅れ、採花期間は長くなる(表1、図1)。

摘心後放任あるいは2回摘心することにより、‘広島紅’および‘銀水晶’については切り花下部の不要な側枝が少なくなり、出荷調整時の廃棄物量が減少する(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

摘心後の整枝作業を省略することで、露地小ギク栽培の省力化・軽労化を図ることができる。

定植3週間後に摘心し放任する方法が、多収を目標とする小ギク栽培に適していると考えられる。

2回目摘心は、整枝と同時に行うことで作業時間および手間の大幅な増加を避けることができる。

[具体的データ]

表1 7～8月咲き露地小ギクの摘心・整枝法による切り花品質と生産性

品種名 試験区	切り花長 (cm)	切り花重 (g/本)	節数 (節)	側枝数 (本)	花蕾数 (個)	採花本数 (本/株)	採花始 (月/日)	70%採花 (月/日)	採花終 (月/日)
広島紅									
対 照	66.9	42.2	29.8	15.0	18.8	2.5	7/25	8/ 9	8/16
1週放任	73.0	35.7	28.1	9.6	17.7	4.8	7/23	8/10	8/17
3週放任	68.8	28.9	24.1	9.1	14.0	7.7	7/22	8/10	9/ 3
2回摘心	58.4	18.0	20.4	7.7	10.2	9.6	7/25	8/17	9/ 7
銀水晶									
対 照	63.1	39.3	31.2	13.4	10.5	2.8	7/17	8/ 3	8/16
1週放任	61.6	31.3	29.0	10.5	8.7	4.2	7/13	8/ 3	8/27
3週放任	63.0	23.3	26.9	7.6	7.5	9.3	7/20	8/ 2	8/23
2回摘心	57.5	17.1	25.4	6.5	6.5	10.0	8/ 2	8/18	9/ 7
平和									
対 照	78.3	45.9	38.7	5.5	22.5	3.1	8/ 2	8/16	8/29
1週放任	81.3	40.0	36.0	5.0	19.8	4.0	8/ 1	8/16	8/27
3週放任	84.3	34.7	35.6	5.1	17.8	5.6	8/ 6	8/21	9/ 7
2回摘心	69.8	24.8	32.9	5.2	15.4	6.1	8/ 7	8/30	9/10

注1) 対照：定植1週間後に摘心したのち、摘心5週間後に3本に整枝。

2) 1週放任：定植1週間後に摘心し、整枝は行わない。

3) 3週放任：定植3週間後に摘心し、整枝は行わない。

4) 2回摘心：定植1週間後に摘心したのち、摘心5週間後に3本に整枝した分枝をさらに摘心。

5) 耕種概要：2007年3月27日挿し芽、4月17日定植、4月25日（対照区、1週放任区、2回摘心区）

または5月8日（3週放任区）に摘心した。5月31日に整枝および2回目摘心を行った。

80cm幅ベッドに白黒マルチを白色面を上にして被覆し、株間15cm、条間30cmで2条植えた。

施肥は有機アグレット674とエコロング100日タイプを窒素量で0.75kg/aずつ施用した。



対照区

1週放任区

3週放任区

2回摘心区

図1 ‘平和’の定植6週間後の状態（2007年5月31日撮影）

[その他]

・研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：花きの高品質省力生産技術の開発

・研究担当者名：村木慎吾

・その他特記事項：